

みんなのひろば



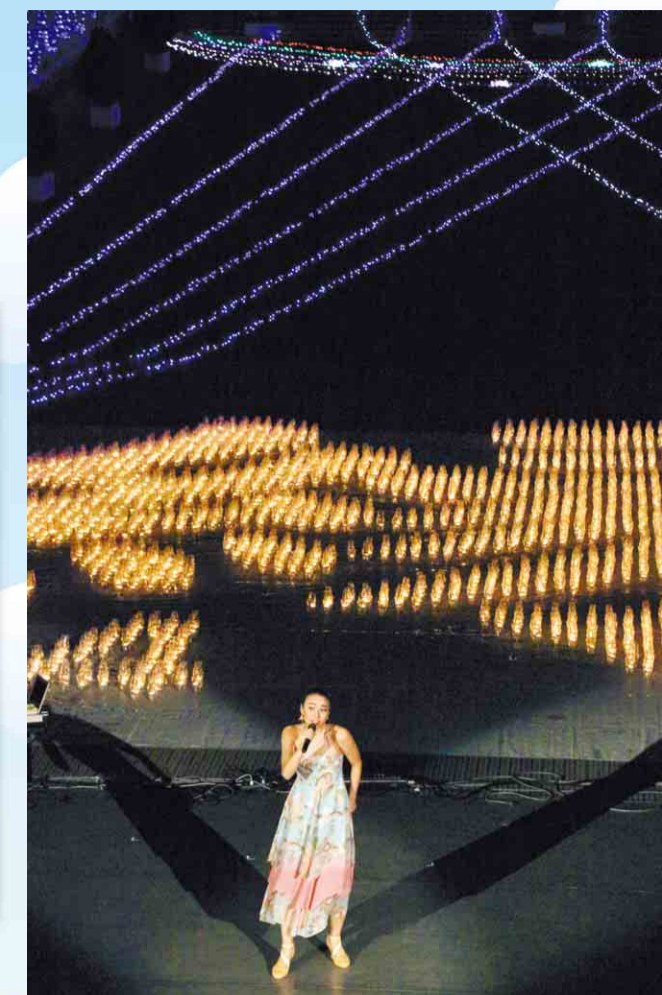
▲ライフライン施設に被害が発生したことを想定して26機関・団体が参加した『防災関係機関・団体との連携訓練（大規模訓練）』。道路障害物除去訓練（写真）では、重機などを使い道路の障害物を除去し、通行可能にする訓練を行いました。8月30日（土）所沢航空記念公園（撮影：市民カメラマン・中村 仁）



▲夏の暑さが残る中、市民プールで行われた『市民プールでカヌー講習会』。子どもたちは、プールサイドで説明を受けた後、プールに入るとこぞとばかり、アツという間にスイスイとアメンボのように水上を楽しんでいました。9月6日（土）市民プール（撮影：市民カメラマン・三平資郎）



▲埼玉県内の他、茨城県や栃木県などから総勢28団体が参加した『第4回ところざわYOSAKOI元気フェスタ』。よさこいの演舞には多くの声援が送られ、観客も一緒に楽しんでいました。9月15日（祝）ところざわ自動車学校・狭山ヶ丘駅東口（撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎）



▲ポランテアの方が約3,200個ものキャンドルで「縁」という文字を描いた中、行われた第10回ところざわ夢あかり音楽会。J.A.Y.S.GARDENやP.saim、宝塚歌劇団出身の天宮菜生さん（写真）など、所沢ゆかりのアーティストが幻想的な空間で歌声を披露しました。9月6日（土）市民文化センターミューズ情報市場（撮影：市民カメラマン・津田資雄）

おうちで食べよう! 所沢の学校給食

39 黄金色の麦風(ばくふう)スープ

栄養士さんが考えた学校給食のメニューの中から、所沢産の食材を取り入れたものや、特色あるレシピを紹介します。

- ◆今回の献立
- サンライズピラフ
 - 牛乳
 - 豚肉の彩りマリネ
 - 黄金色の麦風(ばくふう)スープ★
 - ポテトソテー
 - みかん



★黄金色の麦風(ばくふう)スープ

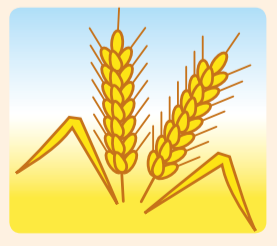
- 材料(4人分)
- ベーコン.....1枚
 - 大根.....100g
 - 玉ねぎ.....1/4個
 - 小松菜.....1/4束
 - うすらの卵.....4個
 - しょうゆ.....3・1/2カップ
 - コンソメ.....固形2個
 - 押し麦.....大さじ2
 - 白ワイン.....小さじ1
 - 塩.....少々
 - こしょう.....少々
 - しょうゆ.....少々

- 作り方
- ①ベーコンは短冊切りにする。大根は細切り、玉ねぎはスライス、小松菜は2cmに切る。
 - ②鍋にベーコンと玉ねぎを入れ弱火で炒める。
 - ③水を入れ、煮立ったらコンソメ、大根、押し麦を加える。
 - ④柔らかくなったら、うすらの卵、Aの調味料を加える。
 - ⑤小松菜を入れ、味を調え出来上がり。
 - ⑥うすらの卵は、水煮を使用しても可。

ここがポイント 黄金色の麦風スープ

所沢市には、大根畑がたくさんあったそうです。また、小麦を白米の代わりに食べていたことから、麦畑も広がっていました。麦畑の上にはひばりがさえずり、巣を作っていた、そんな原風景を知ってもらうために大根、大麦そして、ひばりの卵に見立てたうすらの卵を取り入れて作ったスープです。

◎押し麦は、麦ごはんだけでなく、スープやサラダにも使えます。不足しがちな食物繊維がたっぷりです。



はっぴっ 野老っ子

8月4日～11日に写真文化首都宣言をした北海道東川町で開催された第21回全国高等学校写真選手権大会『写真甲子園2014』は、全国の521校の応募の中から初戦を突破した18校による頂上決戦です。芸術総合高等学校写真部は、初出場ながら高校生らしいストレートな写真表現が評価され優勝、準優勝に次ぐ「優秀賞東神楽町長賞」と東川町民が選んだ「町民が選ぶ特別賞」の2つの賞を受賞しました。表彰式で、一番初めに名前を呼ばれ「後に呼ばれる方が良い賞なので、優勝を目指していただけて正直悔しかったです」と会計の水野さん。「優勝はできませんでしたが、3人で挑戦した結果なので、結果は素直に受け止めました」と副部長の須藤さん。「初日の公開審査会で、本が出版できるほどと評価されたのに優勝できず残念でした」と部長の小花さん。その3人に大会を振り返っていただきました。

初日のテーマは「北海道」。小さい生き物が元気で頑張っている姿を撮影した8枚を選び「ちっさいどー」とタイトルを付けました。初日の公開審査会では「カエルが飛び跳ねる姿にぶら下がっている写真が高評価で、2日目以降の自信につながりました」と須藤さん。

2日目は「夏」。偶然見つけた藍染め工房で職人の作業風景を撮影。「緊迫した空気の中、薄暗い工房に外光が差し込む中で撮影した写真は、3人とも明るさがばらばらで選ぶのに苦労しました」と小花さん。

後悔のないように生きたい

北秋津 小川 昇

夏の高校野球が幕を閉じると夏が終わったなど、もの悲しいような心持に襲われる。テレビを観ながら自分も一緒に血を湧かしたせ拳を握りしめ興奮した夏が過ぎて、心に残ったものがある。敗者がグラウンドにひざまずいて号泣し汗と涙が混じり合った顔で、甲子園球場の土を両手でかき集め故郷に持ち帰る球児たちのコメントの後悔はない。全力を尽くして数々の試合を戦ってきた球児の言葉には、来年こそはその気遣いや爽やかさ、さすがさがあるが、後悔はない。高齢者大学に身を置くほどの年齢を数える自分だが、これから迎える日々をあの球児たちのようにに生きたいものだと切に思い、自分自身に言い聞かせる夏の終わりで。

写真甲子園で優秀賞東神楽町長賞&町民が選ぶ特別賞

小花優衣さん・須藤奈央樹さん・水野敦史さん (芸術総合高等学校映像芸術科3年)

3日目は、前日の反省から「明るさだけは揃えよう」と挑んだ3人ですが、テーマの「ときめき」に「自分がときめいたものなのか、町民がときめいたものなのか分かりませんでした」と水野さん。幼児センターで出会った子どもたちの笑顔や自然な表情の中に輝く瞳を見つけ「写真のタイトルを『ほしのひとみ』と決めました」と小花さん。優勝を逃した3人は「家族のように温かく受け入れてくれたホームステイ先や撮影に協力してくれた町民の方々に大変感謝しています。何より、東川町の方に選んでもらえ「町民が選ぶ特別賞」を受賞できたことが一番嬉しかったです」。また、選手をサポートしてくれた写真甲子園出場者のOB・OGの姿を見て「来年は後輩たちのためにもスタッフとして大会に関わり、恩返ししたいです」と言う3人は、受賞した2つの賞以上に、多くの感動や仲間を得たようです。



▲左から水野さん、小花さん、須藤さん

地域絆 やっぱり自治会・町内会でしょ! 6

ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

東所沢二丁目自治会

～地域をつなぐ、歴史をつくる～ 東所沢二丁目自治会

秋になると東所沢2丁目の東川沿いに曼珠沙華の花が咲き誇ります。東所沢二丁目自治会は東川に面した柳瀬地区にある新興住宅地の自治会です。約30年前から宅地化が進み、現在は50歳～60歳代の世代と子育て世代の2つの世代が多くを占めるため、自治会活動もそれぞれの世代の要望に応えられるよう運営しています。「東所沢2丁目は、昔から住んでいる人たちが、新たに移り住んできた人々を快く地域に受け入れてくれ、大変良い関係が築けています。夏祭りなどの行事になると、多くの皆さんが気持ち良く協力し手伝ってくれます。地域の方が力を合わせれば、大きな力になります。」と吉田信也会長が語るように、20年前は道路と河川敷を区分する緑石が整備されておらず、雑草や廃車の不法投棄などで荒れ果てていた東川沿いを、自治会の「花いっぱい会」が雑草取りやごみ拾いなど、積極的に取り組んだことで、春には桜、秋には曼珠沙華の花が楽しめる憩いの場となりました。また、東所沢駅周辺を安全で住みやすい地域にしたいとの思いから、柳瀬地区の東所沢1～5丁目と松井地区の東所沢和1～3丁目「東所沢8自治会連絡会議」を発足し、情報交換会議を開催しています。さらに、高齢者の生きがいの場や見守り活動の一環となっている地域福祉サロンを運営する団体の活動支援など、他団体との連携も積極的に行っています。



▲吉田会長



▲東所沢二丁目太鼓の会

他にも、東所沢二丁目自治会の愛好会「東所沢二丁目太鼓の会」は活動16年目を迎え、福祉施設や小学校などで組太鼓を披露しています。発足当初に練習に参加していた子どもが、今ではコーチとして活動を支えています。地域には代々受け継がれているお神輿や伝統芸能はありませんが、こうして自分たちで歴史をつくり、継承していくことで地域の絆を強めています。

☎コミュニティ推進課 ☎2998-9083 ☎2998-9491

誰でもエッセイ

◆テーマ「後悔」◆

ウサギ 緑町 須田 洋子

小学1年生の孫が幼稚園からもらい受けたウサギを飼っていた。私も小学生だったころ、ウサギを飼っていた。その真っ黒な毛並みのウサギを飼っていた。そのウサギが定かたではないが、姉の記憶では、大変かわいがっていたという。そんなウサギがある朝死んでしまったのである。狭い小屋の中で運動もろくにできなかったウサギは、どれほど寂しかったのだろうか。私の胸を締めつけたのは、激しい後悔だった。私にはウサギを飼う能力もなければ、資格もなかったのだ。ただ飼ってみたいという好奇心で、まだまだ生きたらたかもしれない一つの命を奪ったのではない。思い出すたびに、後悔と悲しい反省である。

人生は楽しく 宮本町 大島 良英

50歳の後半に入り、自分の人生を振り返れば「後悔」は数えきれないほどある訳ですが、最近思うことは、何があっても人生は楽しく、といつかです。

子どもたちが成人し、就職や結婚という人生の節目にあって、親にできることには限りがあります。たとえ「後悔」するようになったとしても、それがきっかけにつながると信じています。